

複合福祉施設 みぶの里 ボランティアの受け入れ

I. ボランティアの背景と意義

従来の伝統的な個人と地域社会の関わりは、徐々に希薄になってきています。しかし、自由時間の増加や、余暇志向の高まりを背景として、生きがい、知識・教養、健康づくりといったさまざまな目的を持って、従来の地縁、職縁を超えた新しい人間関係を望むようになってきています。

○ 施設にとっての意義

- ・ 施設や利用者理解の促進
- ・ 地域社会との架け橋
- ・ サービスの質、量の拡充
- ・ 開かれた施設としての機能
- ・ 住民参加

○ ボランティアにとっての意義

- ・ 社会貢献
- ・ 施設、サービスに対する理解の促進
- ・ 技術習得、資格取得
- ・ 生きがいの場所
- ・ 健康づくり

ボランティア活動などに参加することで、地域住民が福祉サービスの受益者としてだけでなく、自ら提供者となることにより地域貢献や生きがいを得られ、地域住民自身の満足度も向上していきます。併せて、みぶの里が地域の一員であるという理解を深め、地域の課題を地域住民の手で解決できるよう、積極的なボランティア活動を受け入れる必要があります。

このことにより、施設職員の専門性の向上と、日頃の研鑽意識に合わせ、地域での施設の持つ専門機能の還元をしていく相互関係づくりが大切になります。

II. ボランティアの基本原則

(1). 自発性

自分の意思での自発的な行動が活動の出発点である。経済的必要性や社会的に強制されるのではなく、自身の意思に基づいて行動するもの。

(2). 無償性

金銭・物品・サービス等の「経済的利益や報酬」を目的としない非営利行為をいう。活動の対価や見返りを求めない活動であり、ボランティア活動の報酬は自分の満足感や人と関わることによって得られる人間関係である。

(3). 公共性

自分の利益や特定の人の利益のためだけでなく、より良い地域や社会をつくるために、お互いに支え合いながら活動をする。

(4). 住民性

職業的・社会的な地位・立場があってもボランティアとして参加する場合は、一人の住民として活動する。縦の関係ではなく対等な関係で、それぞれが自分たちのできる事を行うことで支え合う。

III. ボランティア活動がしやすい環境づくり

Q.みぶの里がボランティアにしていきたい活動は何ですか？

A.例えば…

利用者とお話ししていただく傾聴ボランティア

施設行事やレクリエーションのお手伝い

シーツ交換等、直接の介護でない部分での生活を補助する活動

畑づくりや、囲碁・将棋・書道・華道などの趣味を活かした活動、など

どのような活動であっても、ボランティア活動は人間的ふれあいがあり、家庭生活や近所付き合いを越えた広範囲な地域社会の中で、生きがいを感じることができるものであり、相互のふれあいの中で喜びを感じることができるものが基本です。

また、単に職員の手間が省けるからボランティアを受け入れるのではなく、地域の方と関わりを持ち、利用者の方がより充実した生活が送れるような活動にすることが求められます。

(1). 無償性を誤って捉えない

ボランティアは無償の(または安価な)労働力ではありません。手助けが必要な部分を明確にして、それが本当にボランティアでなければならないかを考えてから依頼するようにします。

(2). 対等な関係を築く

ボランティアも利用者を支援するためのメンバーの一人であり、お客様ではありません。利用者のニーズに応えるサービスを強化するためには、ボランティアとの協働が必要です。

(3). ボランティアの想いに気付く

ボランティアの想いをきちんと受け止め、その想いに誠意を持って対応します。施設とボランティアの間に誤解や不満が残らないように常に調整を行い、コミュニケーションを深めていくことが必要です。

(4). 安全な活動

ボランティア活動中には、経験不足や不注意、施設の準備不足等から起こりうる様々なリスクが考えられます。何らかの事故が起こった場合に、その影響をより軽微にするためにも、予め起こりうるリスクを予測し、可能な限りの備え(リスクマネジメント)をしておく事が大切です。

IV. ボランティアをする心構え

誰もが、住み慣れた地域で、いつまでも元気に暮らしたいと願っています。ボランティアも利用者も心豊かに、生き生きと暮らしていけるよう、お互いに尊重し、みんなで支え合う活動としていきましょう。

(1). 知識や経験を活かす

これまで培ってきた知識や経験は大きな財産です。それを活用するために、自分ができる事、得意なことから活動を始めましょう。

(2). 相手を理解して活動しよう

ボランティア活動は双方向の活動であり、対等な協力者であるという気持ちを忘れてはなりません。相手の気持ちを尊重し、相手が何を求めているのか考え、相手の気持ちに合わせて行動することが大切です。

(3). 秘密を厳守する

ボランティアを提供する方と信頼関係を築くには、秘密を守ることが重要です。ボランティア活動に必要な事、関係のない事を立ち入って聞く事は慎みます。活動中に知り得た個人情報決して口外しないよう、秘密を厳守しましょう。

(4). 長く活動しよう

ボランティア活動で最も大切なのはコミュニケーションです。相手や仲間との関係を大切にし、責任を持って計画的・継続的な活動を心掛けましょう。

(5). 活動しやすい環境づくり

活動していくうえで、家族の支援は欠かせません。また、職場や学校にも関心を持ってもらい理解を得られると、今後の活動の輪を広げていくのにもプラスに繋がっていきます。

(6). ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入をし、安心した活動の推進を図ります。ボランティア活動における、ボランティア活動者のための補償制度としての保険であり、ボランティア活動中に起きた事故による、ボランティア活動者自身の傷害や賠償責任が生じるものが補償の対象となります。

V. 活動当日の留意点

(1). 身体の様子に注意する

身体の不具合が悪い時、心が落ち着いていない時は良い活動はできません。咳や熱、下痢症状のある時はインフルエンザ等の感染症にかかっている場合もあり、そのような時は他人に感染させてしまう恐れもあります。体調の悪い時には体調の回復に専念し、活動は慎みましょう。

(2). 相手の立場を尊重しよう

生活のリズムやペースは人それぞれであり、相手に歓迎されない行為や、話したくない話題もあります。相手の立場を考え、自己をコントロールできる態度が必要です。

(3). ルールや決まりごとは必ず守る

施設では、利用者や職員の安全の保持や、サービスを適正に進めるためのルールや方針があります。分からない事は職員に確認し、ルールを守りましょう。

VI. 認知症を理解しよう

(1). 認知症とは

認知症は単なる物忘れではありません。「久しぶりに会った人の事が思い出せない…」このような経験は誰にでもあります。「物忘れ」は老化によって起こる自然なもので、誰にでも起こります。一方、「認知症」は「病気」であり、単なる物忘れではありません。

「認知症」とは、脳や身体の疾患を原因として、記憶・判断力などの障害が起こり、普通の社会生活が送れなくなった状態と定義されています。

認知症の初期症状で最も多いのは物忘れですが、それ以外の症状で始まることもあります。意欲・自発性の低下(やる気が起こらない、これまでやっていた事をしなくなった、等)やうつ症状、言葉の障害、注意力低下なども認知症の初期症状として現れることがあります。

(2). 認知症の人への対応

・基本姿勢

認知症の人と対応する際には、認知症に伴う認知機能低下がある事を正しく理解していることが大切です。そして、偏見を持たず、認知症は自分達の問題であるという認識を持ち、認知症の人やその家族が認知症という困難を抱えて困っている人であるということに思いをはせる事、認知症を抱える人が安心して生活できるように支援するという姿勢が必要になります。

認知症の人も、一般の人との付き合いと基本的には変わることはありません。その上で、認知症の人には、認知症への正しい理解に基づく対応が必要になるということです。

記憶力や判断能力の衰えから、社会的ルールに反する行為などのトラブルが生じた場合には、家族と連絡を取り、相手の尊厳を守りながら事情を把握して、冷静な対応策を探ります。

尚、普段から住民同士が挨拶や声掛けに努める事も大切です。日常的にさりげない言葉掛けを心がけることは、いざという時の的確な対応に役立つでしょう。

(3). 対応の 7 つのポイント

① まずは見守る

認知症と思われる人に気付いたら、本人や他の人に気付かれないように一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。

② 余裕を持って対応する

こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わって動揺させてしまいます。自然な笑顔で応じましょう。

③ 声を掛ける時は一人で

複数人で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ一人で声を掛けます。

④ 後ろから声を掛けない

一定の距離で相手の視野に入ったところで声を掛けます。唐突な声掛けは禁物です。「何かお困りですか?」「お手伝いしましょうか?」「どうなさいました?」など。

⑤ 相手の目線に合わせて優しい口調で

身体を低くして目線を同じ高さにして対応します。

⑥ 穏やかに、はっきりとした滑舌で

高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくりとはっきりした滑舌を心掛けます。その土地の方言でコミュニケーションを取る事も大切です。

⑦ 相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応する

認知症の人は急かされるのが苦手です。同時に複数の問いに答える事も苦手です。相手の反応を伺いながら会話をしましょう。たどたどしい言葉であっても、相手の言葉をゆっくり聴き、何をしたいのかを相手の言葉を使って推測・確認していきましょう。